

2020 年度第 7 回価格審査会の開催について

2020 年度第 7 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

開催日時	2020 年 10 月 14 日(水) ～16 日 (金)	
場 所	新型コロナウイルスへの感染防止策が引き続き必要とされていることから、上記期間中のメール会議とした	
委 員	田中 弘	日本工営株式会社 技術本部 専門顧問 技師長
	江川 浩	東日本建設業保証株式会社 業務部 副部長
	鈴木 孝之	東日本旅客鉄道株式会社 東京工事事務所 工事予算計画室 室長
	辻 保人	一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門 コリンズ・テクリスセンター長
	柳 泰彦	株式会社日本設計 コスト設計部長
当 会	共通資材調査部	部長：大谷 忠広、次長：康広 誠己
	建築調査部	部長：足利 全教、次長：渡辺 弘一
	監査審査室	室長：後藤 裕
	調査統括部(事務局)	部長：神田 尚昭、課長：菊池 信博

2020 年度第 6 回価格審査会議事録(案) 確認

2020 年度第 7 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明	
1. 「建設物価」11月号、「Web 建設物価」11月号の価格動向	
・ 価格が上伸した資材	
【Web 建設物価】	
異形棒鋼（北海道、東北、北陸、沖縄除く各都市）、伸銅品（全都市）、レディーミクストコンクリート（八雲、江差、横手、湯沢、大仙、仙北、富岡、勝浦、高山、飛騨A、B、静岡、掛川、大野、延岡A、B、C、日南、日向、門川、曾於、名護A、B、東）、再生碎石類（旭川）、アスファルト混合物（留萌）、ストレートアスファルト（沖縄除く各都市）、道路用鉄筋コンクリート側溝（富山）、RCボックスカルバート（富山、大阪）、産業用火薬類（那覇）、電線（全都市）、燃料油【軽油スタンド渡し】（北海道の各都市、山形、福島）、鉄スクラップ【鉄】（北陸、中部、近畿、九州の各都市）、非鉄スクラップ【銅】（沖縄除く各都市）など	
・ 価格が下落した資材（工事費）	
【Web 建設物価】	
道路用碎石類（宮古）、コンクリート型枠用合板（北海道、四国の各都市）、燃料油【軽油スタンド渡し】（中部の各都市、徳島、高知）、非鉄スクラップ【鉛】（東京、名古屋、大阪）など	

2. 比較資料		
・企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明。		
審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
質問1	鉄筋かご無溶接工法用部材－ブランド品－で、最大変動幅 - 28.1%となった場所はどこか。また、本品は全国(北海道・沖縄除く)において上伸と下落が混在している状況にあるが、同じブランド品であるKS工法(恵信工業)に対して「メーカーの原価見直しに伴う値上げと値下げの浸透」が混在するのは、どのような背景からか。単に、個々の業者事情に依存しているだけのことか。	最大変動幅 - 28.1%は、ピタットフープアップセットバット溶接D22が570円→410円に下落したことによる。メーカーは一部外注していた製作工程を内製化しコストダウンを図ったが、従来から採算が低かった規格については値上げしたため、値上げと値下げが混在した。
質問2	スクラップ品の物価変動は、ほとんどの場合、売り手側(=供給者、問屋)ではなく、買い手側(需要者、購入者(=製品メーカー))の希望意思(=購入価格)で決まる、というのが一般的なメカニズムであると認識して良いか。売り手側(=供給者、問屋)から物価を主導するという状況は有り得るか。	「建設物価」の掲載価格は、問屋が市中から鉄スクラップを買い取る価格である。この買取価格は、鉄スクラップの発生状況、輸出向け価格の動向、電炉メーカーの購入価格の動向などで決まるのが一般的である。
質問3	産業用火薬類の価格上昇の理由として、那覇市におけるメーカー値上げの浸透があげられているが、値上げの背景は何か。	メーカーの値上げの背景は、販売量減少に伴う固定費率や人件費の上昇に伴う生産コスト上昇である。
質問4	鉄スクラップの価格上伸理由として海外向け需要増があげられているが、輸出先および海外での需要増の要因は何か。	鉄スクラップの輸出先としては、ベトナム、韓国、台湾が上位である。特に、ベトナムへの輸出が増えており、主に中国向け鋼材半製品の原料となっている。
質問5	ストアスのコメントで「9月初旬までの原油相場上昇を受けて上伸している」とあるが、新型コロナ感染拡大を受けて世界的な需要減少の見通しがあるなか、一時的な上昇という認識か。燃料油の下落と反対の値動きになっている理由は何か。	ストアス、燃料油とも原油から精製されるが、原油価格が製品価格に転嫁されるタイミングが異なる。ストアスは過去3カ月間の原油価格の動向、燃料油は直近の原油価格の動向で決定される。原油価格は過去3カ月間でいうと上昇傾向、直近でいうと下落傾向となっている。このため、ストアスは上伸、燃料油(軽油)は下落と異なる動きとなった。

質問 6	過去、非鉄スクラップの種類によらず、ほぼ同様の値動きがみられるが、銅・アルミが上昇しているのに対し、黄銅、鉛、亜鉛が下落している理由は何か。	銅とアルミは、製品メーカーが購入価格を引き上げたが、黄銅、鉛、亜鉛は製品需要の減少でメーカーが購入価格を引き下げた。メーカーの購入価格の動向の違いにより、両者の今月の価格は異なる動きとなった。
質問 7	生コンで、「北海道新幹線工事や外環状道路工事など大型物件が活発化するなか、協組は強気な販売姿勢を崩さず交渉を継続。需要家が安定調達を優先し、打ち出し額が浸透した」とのコメントがあるが、東京 17 区が上昇しているのに対して、札幌が変動していない理由は何か。また全国的に見て仙台だけが下落している理由は復興工事の減少なのか。	生コンは、運搬時間の問題で遠方から持ち込めないこと、多くの地区で協同組合による共同販売が行われていること等から、各地区で独自の市況が形成され、非常に地域差が大きい資材である。八雲地区では、北海道新幹線工事の本格化等で協組の値上げが浸透したが、札幌地区では、北海道新幹線工事は本格化しておらず、協組も現行価格維持の姿勢を保っている。仙台地区では、震災復興需要が減少するなか、協組と員外社の競合から今年の 3 月号で下落した。
質問 8	鉄スクラップで、東京と大阪で異なる傾向としても確認できるが、東京はコロナ禍ではあるものの、夏場を終えて解体工事が出てきたなど、発生量に起因する理由などはあるのか。	両地区とも発生量は低水準で、状況は変わらない。先月、輸出価格の上昇を受け、電炉メーカーは購入価格を引き上げたが、大阪の引き上げ額は東京に比べ小幅だった。今月、輸出価格の高止まりを受け、大阪では、電炉メーカーが購入価格を引き上げ問屋も追従したが、東京の問屋は様子見の姿勢を保ったため、東京と大阪で異なる動きとなった。
質問 9	電車線用 250EP-F がメーカーの生産コスト見直しによるため、最大変動率 62.0% (7,630 円→12,360 円) と大幅な上伸となっているが、具体的にはどういうことか。	大手メーカーは、需要家の設備投資抑制の影響から需要減少が続くなか、原材料や輸送コストの値上がりなどが重なり、採算性を確保するため生産コストの見直しを実施した。その結果、大幅な価格改定となり、年度当初から交渉を進め、値上げが浸透した。
質問 10	那覇地区において、ほとんどの品目が高いのに対して、銅スクラップが 500 円/kg と他の地区 (530 円/kg～655 円/kg) と比較して低価の理由は何か。	那覇地区は、問屋から製品メーカーへの輸送距離が長いこと、問屋が輸送コストを考慮し設定した買取価格が他地区に比べて低くなる傾向がある。全国的に需要が少ないなかで、銅建値の上昇を受けた製品メーカーが購入価格を引き上げたが、那覇地区の問屋は買取価格を引き上げなかったため、他地区と比較して低価となった。

<p>質問 11</p>	<p>主要建設資材(10 品目)の価格動向のコメントを見ると、異形棒鋼以外は全て横ばいで推移する公算となっている。今後コロナ禍で全国のホテル・ビルの建設延期・中止が相次ぐと予想される中で、長期的な見通しにおいても、そのような傾向が続くとみてよいか。</p>	<p>資材価格は、需給バランスや原材料の動向など様々な要因により変動する。加えて、新型コロナウイルスの影響も先行き不透明なため、長期的な見通しを示すことは難しい。</p>
<p>審議結果</p>	<p>「建設物価」11月号、「Web 建設物価」11月号、の価格動向に問題はなかった。</p>	

以上